

いつの間にかできてしまった回復パーティションが目障り

パソコンによっては、回復パーティションが複数存在する場合があります(図1)。回復パーティションとは、Windowsインストール時の状態に戻すための区画。OSをアップグレードすると追加されるほか、メーカーが出荷時に作成する場合もある。OSアップグレードで作成された回復パーティションは削除可能だが、トラブルになる危険性がある(図2)。

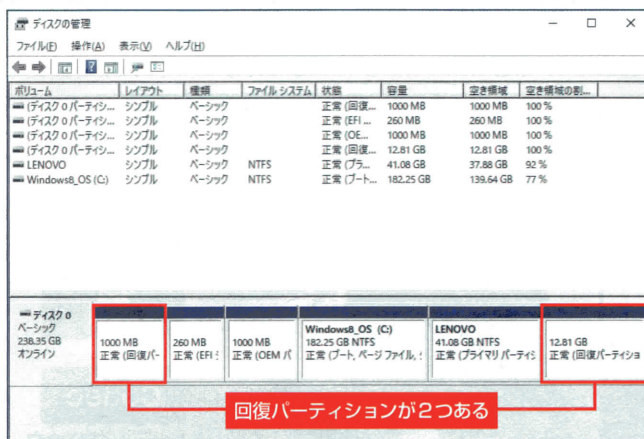


図1 「スタートボタン」を右クリック→「ディスクの管理」でHDDの区画内容を確認できる。環境によっては回復パーティションが複数できていることがある

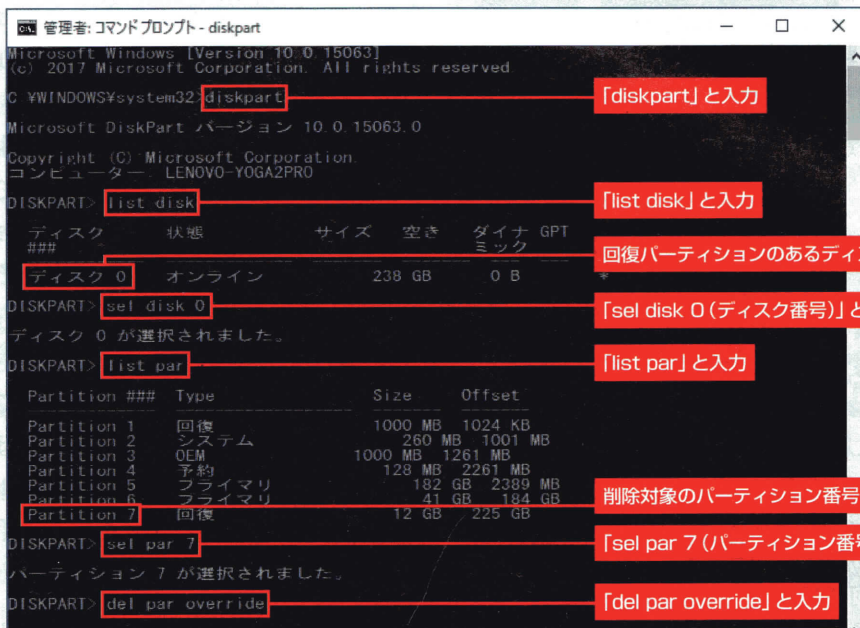


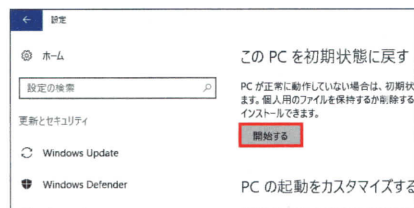
図2 検索ボタンで「cmd」と入力し、「コマンドプロンプト」を右クリックメニューの「管理者として実行」で起動する。回復パーティションを削除するには「diskpart」コマンドを実行する。操作が終了したら「exit」と入力して閉じればよい

トラブルの最終手段“Windowsの初期化”

起動はするが、ソフトが正常に動作しない、あるいは周辺機器が認識しないなど重篤な状態で、健全なときのバックアップデータが存在しないのであれば、Windowsの初期化も検討したい。「回復」画面の「このPCを初期状態に戻す」を実行すると、Windowsが再インストールされ、最新の更新プログラムが適用された状態になる。ソフ

トやドライバーの再インストールが必要になるが、「ドキュメント」などの個人用ファイルは残せる。

なお、完全な工場出荷時の状態に戻すには、メーカーが指定するリカバリー方法を実行する必要がある。HDDに出荷時のイメージがある場合、上の図2の方法で回復パーティションを削除すると実行できない恐れがある。



Windows 10の場合、初期化するには「スタートボタン」→「設定」ボタン→「更新とセキュリティ」→「回復」の「開始する」をクリックする